

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

福岡県におけるウイルス性肝疾患の診療に関するアンケート調査

研究分担者：鳥村 拓司 久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門 教授

研究協力者：井出 達也 久留米大学医学部内科学講座 消化器内科部門 准教授

研究要旨：【背景】近年、C型・B型肝炎の抗ウイルス治療がめざましく進歩している。しかし、未だ治療を受けずに肝硬変、肝癌に進展している例が問題となっており、昨年肝臓非専門医におけるウイルス性肝炎患者の診療に関してアンケート調査を行った。【方法】福岡県下の肝臓非専門医を対象にアンケートを郵送し、FAXにて回答を得た。【結果】2,795施設にアンケートを送付し、721施設から回答を得た。うち62% (449)の施設にウイルス肝炎の患者が通院していた。通院人数はC型肝炎は6-10人が34%、B型肝炎は0-5人が69%の施設で最も多かった。専門医療機関と連携してフォローアップや治療方針を決定している施設は80-90%と高かった。ウイルス性肝炎患者を専門医療機関に紹介しない理由として、「患者が断るから」が最も多く、その理由として、高齢、多忙、希望なし、症状なし、費用、過去に辛い治療などがあった。また予後には影響しないので紹介不要と考える理由に認知症、高齢、肝機能正常があった。【結語】非専門医の施設にもウイルス性肝炎患者は通院していた。専門医療機関と連携が取れている一方で、患者が専門医への紹介を断ったときに説明不足があると考えられた。また肝機能正常であると専門医への紹介は不要と考えている施設も多く、肝炎知識の更なる普及が必要と考えられた。

A. 研究目的

近年、C型肝炎、B型肝炎の抗ウイルス治療はめざましく進歩しており、ほぼウイルスのコントロールが行えるようになってきた。しかし、肝炎以外の疾患で通院しているにもかかわらず、未だウイルス肝炎の治療は受けずに肝硬変、肝癌に進展し、その後紹介される例が散見される。肝機能正常で、ウイルス検査を行う機会がなかった例は、看過されても仕方がない症例が存在するかもしれないが、ウイルス性肝炎が陽性

であっても、適切な医療や経過観察を怠り、専門医への紹介が無いと遅れる症例が散見される。専門医への紹介がなぜ行われないのか、行わない場合の理由などを解明することを目的に、福岡県における肝臓非専門医を対象にアンケートを行い、実態を把握することとした。

B. 研究方法

福岡県における非肝臓専門医を対象とした。主に100床以下の有床病院と無床のク

クリニックや医院で、すべての診療科を対象とした。また介護施設、緩和ケア施設は対象外とした。福岡県医師会からは、医師会を通じてアンケートが行われることを周知していただく形で協力を得られた。

(倫理面への配慮)

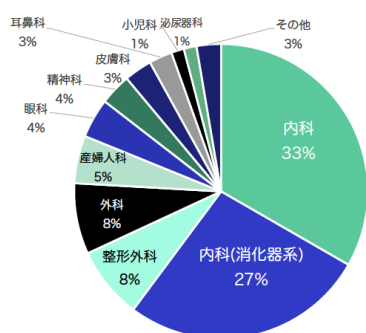
医師向けのアンケートであり、患者に影響が直接及ぶものではないため、倫理面への問題はないと判断した。

C. 研究結果

アンケート内容は、昨年度報告した。

2,795 施設にアンケートを送付し、784 施設 (28.1%) から回答を得たが、内科系が最も多かった。

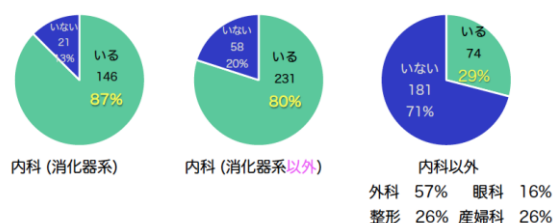
送付機関 ; 2795 機関 → 回答 : 784 機関 (28.1%)



回答を得た 784 施設のうち、偶然肝臓専門医がいた 63 施設を除き、721 施設で以下の解析を行った。

ウイルス肝炎の患者さんはいますか？という問いでは、62%(449 施設)がいると答えた。さらに、科別に検討すると消化器内科系の施設が最もいると答えた。

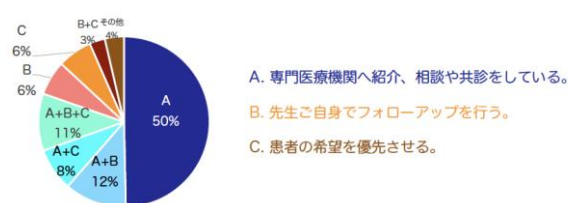
Q3.ウイルス肝炎の患者さんはいますか。 全体では **62%**



ウイルス肝炎患者がいると答えた施設に、通院人数を尋ねると、C 型肝炎は 0-5 人が 32%、6-10 人が 34%、B 型肝炎は 0-5 人が 69%、6-10 人が 20%であった。

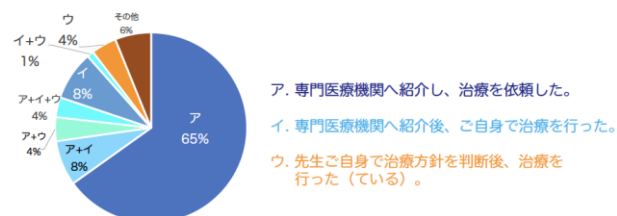
肝疾患専門医療機関と連携しているかを尋ねるために、フォローアップについてお知らせくださいという問いには、約 80%で専門医療機関と連携していた。

Q4.フォローアップについてお知らせください。 443機関

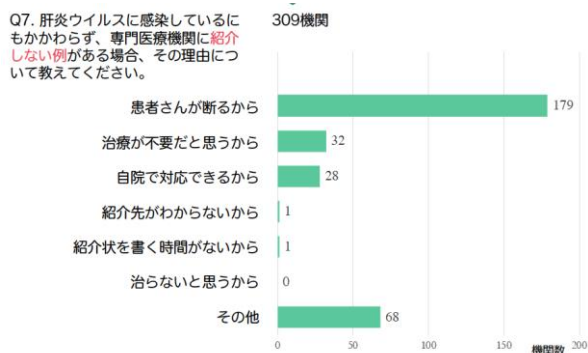


また治療方針等はどうしていますかという問いには、約 90%の施設で専門医療機関と連携していた。

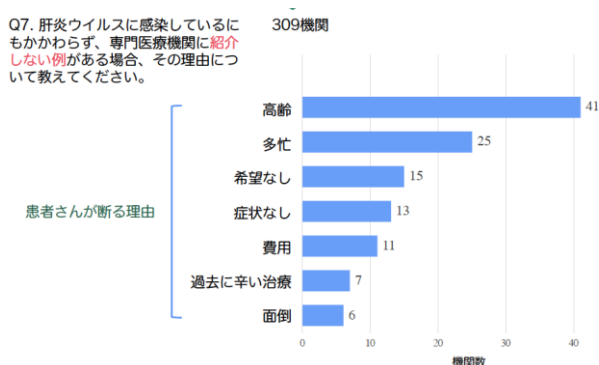
治療方針等はどうしていますか。 444機関



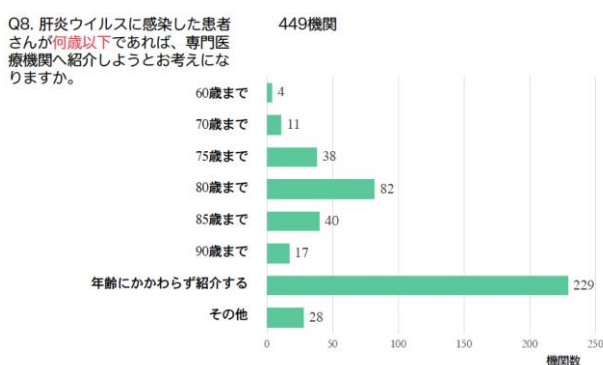
次にウイルス肝炎患者を専門医療機関に紹介しない理由を尋ねると「患者が断るから」が最も多かった。



さらに、患者が断る理由として、高齢、多忙、希望なし、症状なし、費用、過去に辛い治療、などがあつた。

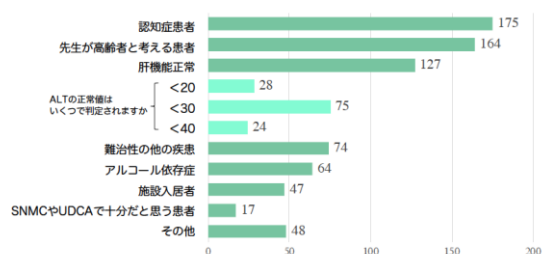


次に、肝炎ウイルスに感染した患者が何歳以下であれば、専門医療機関へ紹介しようとお考えになりますかという問いには、年齢にかかわらず紹介するが最も多かったが、80歳までと答えた施設も多かった。



また予後には影響しないので紹介不要と考える理由に認知症、高齢、肝機能正常があつた。ALT 値の基準値を尋ねると 30 単位未満が多かったが、40 単位未満と答えた施設も約 20%あつた。

Q9. 一般に、先生ご自身が、「予後には影響しないので治療または専門医への紹介は不要」と考えられるのはどのような患者さんでしょうか。(複数回答で算出)



D. 考察

今回のアンケートの結果、非専門医の施設においても過半数（62%）の施設においてウイルス性肝炎患者は通院しているおり、非専門医にとっても決してまれな疾患ではないことが判明した。次に、フォローアップや治療方針の決定に専門医療機関との連携は、80-90%の施設で行われていることが判明した。多くの施設で連携が行われていたが、このアンケートに回答をいただいている施設は、もともと連携を取っているような施設が多いことも推測された。また連携を取れている一方、患者を専門医へ紹介しない場合の理由として、患者が断るという理由が多かった。断る理由として、高齢は仕方ないかもしれないが、多忙、希望なし、症状なし、費用、過去に辛い治療などの理由は患者に断られても医師がうまく説明すれば、治療に結びつけることができると考えられる。更なる啓蒙が必要と考えられた。

年齢に関しては、年齢にかかわらず肝臓専門医を紹介するという答えが最も多かったので問題ないが、80歳までという回答もあり、C型肝炎では、80歳以上の肝発癌が増加している状況を考えて単純な年齢区分は慎重に考える必要があると思われる。

また専門医への紹介が不要と考える理由に認知症、高齢があり、これらは問題ないと思われるが、次に肝機能正常も理由として多く、ALT 値が正常値でも肝内では炎症や線維化があること、ALT 値の基準は 30 単位が妥当であることなどを啓発して行く必要があると思われた。

E. 結論

非専門医の施設にも肝炎患者は通院している。専門医療機関と連携が取れている一方で、患者が専門医への紹介を断ったときに説明不足があると考えられた。また肝機能正常であると紹介は不要と考えており、肝炎知識の更なる普及が必要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の出願・取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし